

笑顔の ひろば

vol. **38**
2017年 冬号

川崎協同病院
広報誌

<http://www.kawasaki-kyodo.jp>

地域に根差す職員を育てたい！

「地域訪問・まちかど健康チェック研修」を実施

川崎協同病院の所属する川崎医療生活協同組合（医療生協）の2年目職員は、2015年度から年に一度、「地域訪問・まちかど健康チェック」という研修を実施しています。今年度は、川崎協同病院から26人の職員が参加しました。

今年の研修は、10月末の台風一過の秋晴れのなか、午前中は職員2、3人と医療生協の理事・組合員とで川崎協同病院の周辺地域で暮らす患者・組合員などの自宅を訪問しました。「お元気ですか」と声をかけ、身体の状態だけでなく、ふだんの生活の状況、病院や診療所への要望、暮らしている地域への要望を聞きました。

また、この機会を通して、健診のお誘いや医療生協の紹介活動も体験しました。これまでこうした訪問経験がない職員が多く、緊張したようすも見られましたが、同行した地元の組合員が話し上手なこともあって、和やかな雰囲気の中に訪問活動を行うことができました。

午後からは、職員のみで川崎駅東口ロータリーで「まちかど健康チェック」を行いました。血圧測定・体組成計・足趾力・予防リハ・相談コーナーなどさまざまなブースを設け、道行く大勢の人に声をかけ、健康チェックへの参加を呼びかけました。



川崎駅東口ロータリーで職員が行った健康チェック



地域の組合員宅を訪問して話をきく

地域の実情と組合員活動の意義を学ぶ

健康チェックを受けた人たちは、健康についての関心も高いようで、「これからも健康で頑張ろうかな！」という声もあり、予防活動が健康意識を高めることがわかりました。日々働いている内容を活かした実践になりました。

職員からはこの研修を終えて次のような様々な感想が寄せられました。

「病院の中で勤務していると忘れがちな地道な組合員・地域活動によって職員が支えられていることを知ることができた」、「ひとり暮らしの人も多く、地域のコミュニティーの大切さを実感した」、「他法人にはない活動でよい」、「土地柄や雰囲気がわかった」、「退院後の患者の生活を想像できる貴重な体験だった」、「健康チェックは多くの人に健康に興味を持ってもらうためにやったほうがよい」

また、午前中に職員に同行した地元の組合員は、職員と一緒に訪問してくれたことで、ふだんドアを開けてくれない訪問先のドアが開き、話ができたと言っていました。職員にとっても地域にとっても有意義な研修でした。

川崎協同病院 看護師長 長島 玲子

平和の思いを込めて一緒に走る

第8回ピースラン・イベントに151人が参加



平和を願ってみんなで一緒に麻生区のあさお診療所から川崎区の協同ふじさきクリニックまでの35.9キロを走る、毎年恒例の「ピースラン& BBQ」(川崎医療生協主催)を10月1日に開催しました。今年で8回目を迎え、年々参加者も増え、運営スタッフも含めると、これまで最多の151人が参加しました。実行委員長の田中久善院長はじめ、当法人理事長の桑島政臣医師や3人の研修医など多くの医師も参加しました。



走り終わってみんな満足(協同ふじさきクリニック前で)

今年は、ランの参加者は例年より少なめでしたが、その分、「キッズラン」には多くのちびっこたちが参加、応援する人たちも笑顔あふれるイベントになりました。

走った人も応援した人も、タオルにTシャツ、ゼッケンといったみんな思い思いのピースグッズを身に着け、思い切り平和をアピールしました。

走り終えた後は、お待ちかねのバーベキューをして、みんなで楽しく交流することができました。年々、少しずつスタイルを変えていて、いまでは走らない人も参加し一緒に交流できる企画になってきています。

初めて参加した川崎協同病院の職員からも、「とても楽しかった。来年もぜひ参加したい」「平和をアピールしながら走ったことに満足」といった感想が聞かれました。今後も、10回、20回と続けていける企画になるよう盛り上げていく方針です。

川崎協同病院 地域連携室 高橋 靖明

STAFF「もうひとつの顔」

サッカー観戦の楽しさに魅せられ

川崎協同病院 3階病棟 看護師 ^{たがわ まゆ} 高川 菜由

川崎協同病院に勤めて2年が経過しました。現在は、一般急性期の3階病棟で看護師として働いています。3階病棟は入院数・退院数が多く、忙しい日々を送っています。

そんな中で私の頑張りの源になっているのはサッカーです。日本のクラブチームだけでなく、海外のクラブチームの試合や代表戦もスタジアムで観戦するのが好きです。きっかけは、弟が所属しているサッカークラブの行事に参加してJリーグの試合を観戦したことです。



急性期患者の記録を入力



スタジアムで日本代表を応援

サッカーって楽しいなと感じ、それから国内の試合を頻繁に観に行くようになってサッカーが大好きになりました。サッカー観戦の魅力は、チームや選手によって戦術や特色も違う中でゴールまでの過程をみんなで一緒に楽しみ、応援できることだと感じています。

試合に何度か足を運ぶと、好きなチームと一緒に応援できる友達もできました。また、日本全国で試合があるので旅行のような感覚で色々な場所へ遊びに行くことができ、全国にサッカーを通じた友達も増え、人との繋がりも広がりました。

時々、スタジアムで知り合った友達に誘ってもらい、サッカーやフットサルをするのも楽しみのひとつです。そんな仲間と休日に大好きなサッカーを観に行ったりフレッシュすることが頑張っている仕事をする活力になっています。

私が担当します！

早期発見が何より重要 ～女性技師が対応、安心の検診を～

乳がんは年々増加傾向にあります。有効な予防はありませんが、早期発見により多くの方が治癒しています。早期発見のために重要なのが、マンモグラフィという検査法です。川崎協同病院では、2016年4月に最新式のデジタルマンモグラフィの装置を導入しました。

この装置では、従来より少ない被ばく線量で、画質を落とすことなく撮影することができます。当院には、乳がん検診認定医師・認定技師が在籍していて、木曜日以外の平日は女性医師が対応しています。また、マンモグラフィは基本的に私たち女性技師が対応しています。乳がん検診施設認定も取得済みのため、安心して検査を受けていただけます。



川崎協同病院 放射線技師
まいえ じゅんこ
真家 純子

略歴：

2010年診療放射線技師資格取得 同年より総合病院にて勤務。
2012年マンモグラフィ認定技師資格取得
2015年より川崎協同病院に勤務

検査希望者が増加しているため予約枠を拡大したので、予約も以前より取りやすくなっています。乳がんの早期発見のためには、定期的に検診を受けることが大変重要であり、川崎市の検診制度では、2年に1度のマンモグラフィによる乳がん健診を推奨しています。川崎協同病院健診室で予約を受け付けています。

トピックス TOPICS

事務長に就任して 治療だけでなく健康イベントも大切に



川崎協同病院 事務長 佐藤 秀樹

今年8月に事務長に就任しました。私は1993年に川崎医療生協の職員となり、最初は川崎協同病院に勤務しました。2003年に大師診療所事務長となりましたが、2007年には川崎医療生協本部総務部に移り、その後総務部長を経験しました。

このころは、川崎医療生協が経営的な問題を抱えていたときでもあり、本部で経営や組織運営について学びながら経営再生に取り組んできました。そのなかで、患者の命とともに職員の生活を守ることも重要であると強く感じ、以来その思いで仕事をしてきました。

川崎協同病院は、差額ベッド代は徴収せず、無料低額診療制度の指定を受けています。昨年10月には、地域に多い一般的な急性疾患に対応する機能や亜急性期に力を入れた病棟機能の整備を完了しました。また、入退院をスムーズにできるように、地域連携室に社会福祉士を7人配置し、退院時の合同カンファレンスの開催を重視しています。

当法人では治療で病院を利用するだけでなく、だれでも気軽に参加できる「健康体操教室」、「太極拳教室」、「医療講演」、「街角健康チェックコーナー」など健康に関する教室や「認知症カフェ」や「高次脳機能障害家族会すばるの会」などを定期的に開催しています。「連携」をキーワードに地域のみなさんと協力しあえる病院を目指しています。



広島県宮島の「あなごめし」

私の出身は青森市です。まとまった時間が出来ると、冬はワンシーズン2、3回スキーをしに出かけ、ほかの季節は、観光地へ行きその土地の珍しい料理を食べるのが趣味です。最近では広島県の宮島で食べた「あなごめし」が絶品でした。



坂道の途中に建つ樹の丘

地域とともに 16年 利用者の立場で 介護老人保健施設「樹の丘」



川崎市北部の高津区にある介護老人保健施設「樹の丘」は、川崎医療生活協同組合で唯一の介護老人保健施設で、南武線久地駅から徒歩5分の坂道の途中に位置します。

併設の久地診療所が無床診療所となった今、南部の川崎協同病院とともに貴重な有床施設となっています。定員数は80人で、うちショートステイが10人、通所リハは25人を受入れ可能です。

「樹の丘」の歴史は、2000年の介護保険施行の翌年から始まります。久地診療所が現在の場所に新築移転したため、その跡地に、医療生活協同組合の組合員をはじめとする地域の人たちの強い要望で介護老人保健施設を建設することとなりました。全国各地で介護老人保健施設の建設が進められていたところのことです。

建設費用は約13億円で、地域の人たちの出資によって、2001年10月1日久地診療所を併設する介護老人保健施設樹の丘を開設しました。この「樹の丘」という名称とロゴマークは公募で決まりました。

開設の翌年から毎年続く「樹の丘まつり」は、地域の老人会の人たちや久地小学校の児童などが参加して、組合員による各サークルの発表、利用者による合唱、職員によるロックソーランなど催し物が盛沢山なおまつりです。16回目となる今年度も10月14日(土)、雨の中開催し、370人が参加し地域のまつりとして盛り上がりました。

「樹の丘」の入所者のほとんどは麻生区、高津区の医療機関からの紹介です。久地診療所が無床診療所となったため、現在は、総合高津中央病院が連携医療機関となっているので、必要に応じて入所者は同病院へ入院することができます。このほか、希望により川崎協同病院へも入院することができます。



施設長 藤波 まさ子 医師

略歴

1982年、聖マリアンナ医科大学卒業、同大学第3外科で研修。その後、山形県にある松田医院院長、神奈川県内の2カ所で老人保健施設の施設長をつとめ2017年7月より現職。

わが家のように過ごせるように

ここ数年、介護老人保健施設の入所者には在宅復帰が推奨されていますが、「樹の丘」では、在宅療養での対応が難しい人や、療養型病院、特別養護老人ホーム等の施設への入院・入所が難しい人でも受入れ、入所者が安心して過ごせるように対応しています。

入所期間が長くなれば、「樹の丘」が第2の自宅になってきます。そんな利用者へ寄り添った取り組みに力を入れています。全国的な介護福祉士の不足で「樹の丘」でも、これまで利用者の安全確保のためしばらく外出レクリエーションを控えていましたが、入所期間が長い利用者には誕生日に、スタッフとともに外食するレクリエーションを始めました。

今後は「胃ろう」の利用者の遠足を予定しています。また、今年度は、“わが家”としての「樹の丘」で最後まで過ごせるようにと、7月に着任した藤波まさ子所長を中心に、櫻井純子看護師長や現場のスタッフが協力し、利用者の立場に立った取り組みを始めています。

老人保健施設「樹の丘」

〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地 4-19-1
TEL 044-820-0350

